

# 京大病院医療安全情報44

## 【フットポンプを装着してよいのは？】

質問：下肢静脈瘤があれば、術後にフットポンプを装着したらダメなのではないでしょうか？

回答：

- ① 下肢静脈瘤であればフットポンプは禁忌です **×**
- ② 下肢静脈瘤にはむしろフットポンプが必要です **○**

### 【解説】下肢静脈瘤とは？

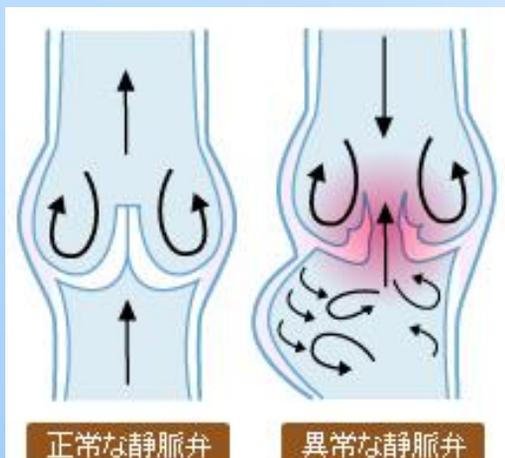
血液は、心臓のポンプ作用によって動脈を介し全身に送られます。末梢や臓器に送られた血液は、静脈系を通過して心臓に還流します。下肢の場合には、心臓までの距離が遠い、（立位や坐位では）重力に逆らって還流するため、血液が逆流しやすい状況にあります。

静脈には逆流を防止する[静脈弁]があります。加齢とともに、静脈弁が閉鎖しにくくなり、逆流を許してしまう状況が発生します。そうして発症するのが下肢静脈瘤です。

### 【症状】

- ◆足のむくみ。足がだるく疲れる。
- ◆足の血管が浮き出ている。
- ◆皮膚が黒ずんできた。湿疹ができる。
- ◆足に潰瘍がある。

**【注意！】静脈のうっ滞があれば  
血栓が出来やすくなります**



## 下肢表在静脈を適度に圧迫することで 静脈還流を助けます

方法は2つあります

- ① 弾性ストッキング／包帯着用
- ② フットポンプ（間欠的空気圧迫法）

②については，スリーブが接触する下肢部分に皮膚炎／下肢静脈瘤手術直後の静脈結紮，壊疽，最近行われた植皮があれば，皮膚症状を悪化させる可能性があるため禁忌ですが，単なる下肢静脈瘤には使用して構いません

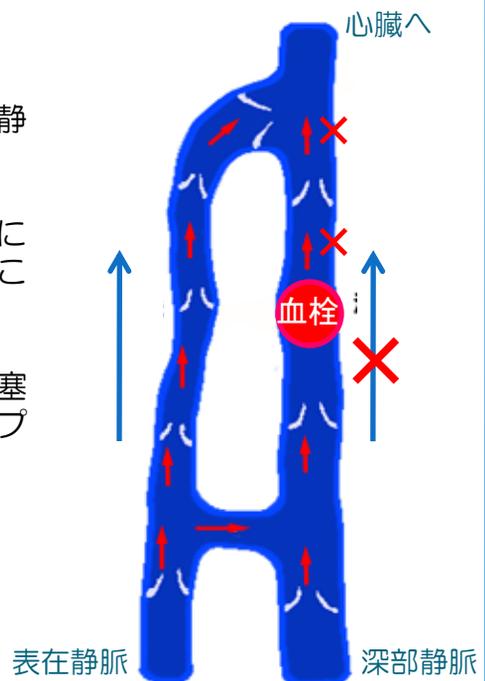
深部静脈血栓症があれば・・・**禁忌**です

フットポンプによる加圧によって，深部静脈の静脈還流量が増えます。

しかし，深部静脈に血栓があれば，加圧によって血栓が遊離し，肺塞栓症を引き起こすかもしれません。

【深部静脈血栓症がある】場合には，肺塞栓症の危険性が高まるため，フットポンプの使用はできません。

※ 「術後静脈血栓塞栓症予防対策マニュアル」もご覧ください



フットポンプや弾性ストッキング／包帯は，  
【深部静脈血栓症のない】  
下肢表在静脈瘤患者には使ってよい